稲垣定穀書写年表

中川　豊

はじめに

津市津図書館の特別コレクションに稲垣文庫がある。稲垣家は、稲垣家二代信峯（一六八二‐一七五五）より、江戸牛込および津市八丁に住して呉服商、両替業などを営んだ商家である。江戸店は明治十二年頃に引き上げたものとみられ、その後は八丁で九代稲垣幸三郎が肥料販売業を展開し大いに繁盛したという。この間、稲垣家の資料は、幸い空襲による戦火を逃れ流出することなく、およそ二百年間タイムカプセルのごとく保たれた。

この稲垣家の資料の存在を初めに発見し、しかるべき機関へ寄贈を持ちかけられたのは、大阪大学名誉教授の海野一隆氏である。そのいきさつについては海野氏自身が執筆しているので引用したい。[1]

平成五年四月のある日、津市八町の谷川士清（ことすが）（一七〇九‐七六）の旧宅（国定史跡）を見学しての帰り途、同じ家並の何軒目かに「稲垣」という表札を見つけ、刺を通じたところ、そこが定穀の旧宅であった。もっとも、それ以前に、洋学史料を豊富に所蔵される津在住の茅原弘氏（元一郎氏のご子息）から、稲垣家の大体の所在は教えて貰っていたので、全くの偶然ということではない。そのときは、前触れのない訪問であり、近くの寺の境内にある定穀の墓に案内して貰った程度であるが、筆者の

住所が伊賀の名張ということもあって、その後何回か訪れているうちに、土蔵内もかなり湿気がひどいことを知り、然るべき公共機関に寄託されることが、保存・利用両面からして望ましいのでは、と率直なところを申し上げた。幸い稲垣家の方々のご理解は早く、それから三年も経たないうちに、津市図書館への一括寄贈という決断をされたのであった。

寄贈は、平成八年九月を皮切りにその後二度に及んだ。[2]

第一寄贈　平成八年九月　古典籍・地図・書翰・測量器具など約一八〇〇点

第二寄贈　平成十六年七月　古典籍・額・屏風・レコードなど約一〇〇〇点

第三寄贈　平成二三年四月　商業文書・書画・短冊など。点数不詳

寄贈が三度に分かれているのは、後から資料が出てきたからであって、意図的に分割したものではない。このうち第一次寄贈分のみ『稲垣文庫仮目録』（平成一三年三月、津市津図書館）が刊行されている。

寄贈資料全体から商業文書、古典籍、書画、短冊、板木、測量器具など様々な形態の資料が見られるが、目を見張るのは、五代稲垣定穀（一七六四‐一八三五）の書写資料であろう。定穀は、天文、地誌に特に関心を示して多くの書写資料を残した。さらに彼は親族知友などに書写を依頼し、蔵書の充実を図っていた。[3]

本稿は、『稲垣文庫仮目録』収録分を粗々閲覧し、奥書・筆跡・蔵書印などから稲垣定穀の書写と判断される資料を取り上げ、書写年代順に配列し年表としてまとめたものである。ただし、第二次寄贈分などにみられる定穀の書写資料については、収録しておらず、不完全なものである。目下整理中の二次寄贈分なども今後加えて、充実したものにしたい。もって稲垣定穀の書写活動を捉え、地方民間学者の学問享受の様相を示したい。

なお、書写にあたっては、定穀の指示のもと甥の信實と実子の之保が協力している点がわかっており、本稿でもしばしば名前が出てくるので、二名を略記する。

信實（一七八六‐一八六八）稲垣家六代当主。四代信顯の子。定穀の娘三從を妻とする。

之保（一八〇五‐？）定穀の長男。文化十五年（一八一八）

二月、稲垣家の分家七郎兵衛家へ養子に入る。定穀の著『八国接壌図』を定穀の死後、天保五年に出版。なお、「信保」なる人物がしばしば定穀の書写奥書に出てくるが、之保と同一人物と憶測されるが確証をえていない。

注

（1）海野一隆「稲垣文庫の洋学史関係資料」（『早稲田大学蔵資料影印叢書』月報15、早稲田大学出版部、一九九七年七月）

（2）拙稿「稲垣文庫と稲垣定穀」（『中京大学図書館学紀要』三十二号所収、二〇一一年五月）

（3）拙稿「稲垣定穀の転写本」（『中京大学図書館学紀要』三十五号所収、二〇一四年九月）

凡例

一、「書写」資料の範囲は、定穀の転写本を中心に著書や自筆稿本、抜粋、合写、天文の継続的な記録や実地踏査・測量の記録、備忘的なメモ類など幅広く捉えている。写本、板本への書き入れも定穀の筆跡と判断した場合は収録した。書写活動の年表ではあるが、身辺の重要事項、親族を含めた執筆活動にかかわる事項についても最小限収録した。

一、通し番号と書名は、『稲垣文庫仮目録』（以下「仮目録」）によっているが、仮目録の書名が不適切と判断した場合は、［　］に筆写が認定した書名を記し、その後ろに（　）で仮目録の通し番号と書名を記した。また、書名から内容が推測できないものなどについて＊を付してごく簡略な内容説明を施したものもある。仮目録以外の資料については（　）内に出典を記した。

一、年表の配列は、奥書の書写年月日をもとに編年体としている。奥書に月日の記載がない場合は、その年の後方にまとめて記載した。

一、定穀の筆跡とみられるものの、奥書がなく書写の時期が不明であるときは「年月日不明」として年表の後ろに仮目録の通し番号順に列記した。筆跡は執筆時期や、資料の性質などにより異なり、判断が困難ではあるが、誤断を恐れずに積極的に取り入れた。

一、奥書はその内容を私に記述したが、場合によっては「　」内に奥書そのものをあげた。

一、定穀自身の手控えなのか、転写したものなのかなどに考察が及んでいない点が多々ある。今後の調査を期したい。

書写年表

明和元年（一七六四）一歳

六月二十九日誕生（稲垣家蔵［稲垣家系譜］（書名なし）・稲垣家蔵『系図』）

安永八年（一七七九）十六歳

四月、2『萬控』は、この年はじめての江戸下向から、寛政四年までの各地下向の記録。裏表紙に「信久」（定穀）と墨書あり。

天明三年（一七八三）二十歳

1107『癸卯艸暦』を書写。癸卯→天明三年。

天明七年（一七八七）二十四歳

1106『丁未艸暦』を書写。丁未→天明七年。

940『敬紙』を書写。＊『敬紙』は「司馬江漢が上京のとき」「彗星」などについて小嶋好謙の書状を写したもの。

天明八年（一七八八）二十五歳

881『犬石考』（浄書本）879『犬石考』（稿本）所収「犬石の図趣向書」によると大和国那富山墓の「犬石」を訪れる。那富山墓の四隅には隼人石、七匹狐などと呼ばれる人身獣頭の像を線刻した石柱がある。後にこれを考証したのが『犬石考』。寛政十二年夏朔旦→

寛政元年（一七八九）二十六歳

佐兵衛と改め名を定穀、字を之戩、号を見山とする（［稲垣家系譜］・『系図』）。

二月、905『安永改暦之法』の奥書に「寛政元年己酉仲春　稲垣之環（定穀）甫請写」とあるが、本文は他筆。

927『距筭十七年』を書写。＊己酉。天体測定の記録。

寛政二年（一七九〇）二十七歳

926『距筭十六年』を書写。＊庚戌。天体測定の記録。

寛政四年（一七九二）二十九歳

閏二月、761『太平策』の奥書に「寛政四歳次壬子閏二月日（ママ）止〃軒蔵」とあるが、本文は他筆とみられる。「止〃軒」は定穀の号（前述注2「稲垣文庫と稲垣定穀」）。京都の橘南谿の塾中で1030『二儀略説』を書写。橘南谿は定穀の師。

1108『壬子年（暦）』を書写。

寛政五年（一七九三）三十歳

1010『天地二球用記法』（本木良永）を書写。

寛政六年（一七九四）三十一歳

四月十五日、内海氏秘蔵本によりに1024『登壇必究天文』を抜粋書写する。

十月、942『乾坤弁説』（沢野忠庵）を書写。

寛政七年（一七九五）三十二歳

四月十六日、1153『月池桂川先生和蘭薬選中』を書写。奥書に「東武於望芙舎写之」とあり。望芙舎は不詳。

五月一日、585『北海随筆』の奥書「東武於望芙亭敕（ママ）写也」は、定穀筆であるが、本文は他筆。

五月十六日、584『蝦夷記』の奥書「東武於望芙亭敕（ママ）写也」は、定穀筆であるが、本文は他筆（本文は585『北海随筆』の本文書写者と同筆』）。

五月、1『凸頭彙稿』の序文を記す。「…今年寛政七乙卯年ハ東武ニ在テ緒先進ニ尋問ノ事アリ然モ其事々解事ノ不能ハ自若タリシカハアレト数年ノ中チ常調ト云ヘトモ遺亡センモ本意ナク教示ニ任セ鄙文俗語人ノ見るベキニモアラズ五月ノ短夜燈火ニ記ス」。『凸頭彙稿』は定穀の考証随筆。全四十八巻二十四冊。

十一月三日、伊勢国野田村黒川文右衛門女、巻（年齢十八）を娶る（[稲垣家系譜]・『系図』）。

寛政八年（一七九六）三十三歳

三月、四代信顯（信泰・勘四郎）の子として家名を相続する（[稲垣家系譜]・『系図』）。定穀にとって、信顯は義兄にあたる。

1072『七曜暦（寛政暦）』を書写。＊寛政八年～十三年の暦。

1082『寛政八年歳在丙辰暦』を書写。

寛政九年（一七九七）三十四歳

十二月、950『古今暦略説』を書写。奥書に本田芳信の門人と記す。「寛政九年丁巳十一月　本田芳信識　同年十二月朔旦、門人紀定穀写之」。罫紙の柱に「竹林」。

冬、885『服忌令（ぶつきりょ）』を筆授する。堀方孝口述。大森義諟の序文あり。

1085『寛政九年歳丁巳之暦』を書写。

1088『暦（寛政九丁巳）』を書写。

1366『南留別志』を書写。奥書に「…東武荻生氏請所蔵謄写卆」などとあり、荻生家伝来の『南留別志』（荻生徂徠）を書写。

寛政十年（一七九八）三十五歳

九月十日、妻の巻、二十一歳にて没す（[稲垣家系譜]・『系図』）。

寛政十二年（一八〇〇）三十七歳

夏朔旦、881『犬石考』を著す。天明八年↓

八月、江戸の望芙亭で646『加模西葛杜加風土考　図付録』を書写。「凸頭隠士小周子」と署名。三澤吉蔵の本奥書あり。

稲垣伊兵衛（不明）が373『白隠和尚荒年施行歌』（配り本）を白木屋より貰う。識語「東武牛籠寺町　稲垣伊兵衛」。

享和元年（一八〇一）三十八歳

三月、990『西洋星象分位考』を越深蔵子（不詳）の求めに応じて著述。988『西洋星象稿』は、その稿本。

413『岐の記』に「同学本居宣長の身うせられけるよし聞ていよいよこゝろぼそうおぼえければいのち全幸（マサキ）くて本郷（クニ）に帰りなん事をしかに乞祷奉（コヒノミマツ）りて」と記す。

十一月、橘南谿が定穀著616『坤輿全図説』（刊）の序文を記す。享和二年十月↓

享和二年（一八〇二）三十九歳

十月、一岡山人（不明）が定穀著616『坤輿全図説』（刊）の跋文を記す。無刊記。享和元年十一月↓

1075『七曜暦（寛政暦）』を書写。

享和三年（一八〇三）四十歳

1076『七曜暦（享和三癸亥）』を書写。

文化元年（一八〇四）四十一歳

五月、674『万国図』を模写。奥書「假木村氏所蔵模写焉」。

六月、643『各所行程里数以南都奉行所為基』を書写。奥書に「凸頭山人述」とあり。＊大和国内にある御陵について、所在地、里程を郡ごとに分類して列記したもの。

九月、661『魯西亜國　奉献本國全図』への識語「文化元甲子九月七日崎陽入津魯西亜國帝名アレキサントル使節カームルヘール官名ニゴラーレサノット人名奉献本國全図」は、定穀の筆跡だが、地図自体の書写者は不詳。

九月、659『環海異聞海路略図』・660『亜細亜洲　欧羅巴洲』を書写。両資料はツレ。

1104『七曜暦（享和四甲子）』を書写。

文化二年（一八〇五）四十二歳

1073『七曜暦（寛政暦）』を書写か。＊文化二年～八年の暦。

八月、1347『将棋鈔』を書写。

十一月晦日、松坂伊藤五良（ママ）兵衛の紀行文592『西海記』（明和

七年成立）を抜粋書写。

文化四年（一八〇七）四十四歳

五月十六日、本田利明秘蔵本により391『ハアテレジョゼフ御吟味書』十通のうち初めの一通を書写。一通巻末に信實、寛子等に謄写させた由を記す。「凸頭樵人識」。

1046『文化丁卯彗星』は紙片二枚。一枚は文化四年八月二十八日夜より彗星が現れた内容を罫紙に書き付けたもの。もう一枚は彗星の位置を簡潔に図に記したもので「小嶋先生恵贈文化丁卯秋彗星図稿」とある。小嶋好謙から贈られた図に定穀が識語を記したもの。

文化五年（一八〇八）四十五歳

一月、991『赤道宿度』が京都より贈られてくる。巻末に定穀の識語あり。＊『赤道宿度』は、「赤道宿度　角一十一度八十三分…」などと記された書きつけ一枚。

十月十六日、599『魯西亜製輿地名』を書写。

1045『（土星、太白（図））』を書写。＊土星の観測図。コヨリ綴じ二枚。

文化七年（一八一〇）四十七歳

八月十五日、1009『天説弁序』を書写。「凸頭山人述」とあり著作か。

文化八年（一八一一）四十八歳

夏日、小嶋好謙所蔵本により303『応安三年具注暦』を書写。

七月、977『彗星行度図』が村田某より贈られる。識語に「東武村田氏恵贈」とあり。巻末に定穀自身による考察を記した紙片を添付。村田氏、文政二年三月→

九月一日、本田利明所蔵本により587『亜細亜諸嶋志』を信實に書写させる。奥書、本文中の朱筆書き入れは定穀。

秋、1071『惑問摘要』（小嶋好謙）を京都にて繕写。奥書「…京師間之街於寓居繕写焉」。

十月一日、「間之街」の寓居において647『萬国管闚』（志筑忠雄）を書写。

十月晦日、京都小西家秘蔵本により1148『革（ひかい）薛製法伝』を書写。凶年救荒に備えて子孫に記したもの。

文化九年（一八一二）四十九歳

小嶋好謙所蔵本により596『坤輿外記』を謄写（一月～四月中旬頃の間）。その後四月晦日に吉雄牛翁所蔵本より図紙三葉を書写して追加するとともに校正を行う。

九月、「京師間街のやどり」にて由良時諶（ときざね）所蔵本を借覧し1411

『美保津久志』（藪井星池）を書写。

十月、1185『渡海新法』（本田利明）を書写。

十月十六日、576『校正萬國管闚』は、序文末に「竹箆居士自題」とあるが、筆跡は定穀ではない。その直後に「紀信實謹書」とあり、序文執筆は信實によるが、序文の制作と本文・外題の筆跡は定穀でよかろう。

文化十年（一八一三）五十歳

四月一日、江戸において578『東韃日記』（間宮林蔵述村上貞介筆録）を彦子（不明）に謄写させる。奥書は定穀による。本文中に定穀による朱筆訂正あり。

四月、藤井氏所蔵本により952『（コペルニュス説図解）』を謄写。

八月晦日、1129『（眼病）』（七冊）所収のうち「竹内家目薬方」一冊を書写。奥書は定穀の筆跡で「尾州高島竹内家眼薬法一本某子請所蔵模写焉…文化十癸酉八月晦日　竹箆居士誌」とある。

文化十一年（一八一四）五十一歳

三月、1160『痔薬』を書写。＊本書は「木賊」や「獺肝」など、効能のある動植物名などを記して簡潔に解説したもの。三井丹丘の略伝を記す。丹丘とは「旧友」とあり。

十月、小嶋好謙所蔵本により565『西洋雑話』を書写。

1074『七曜暦（寛政暦）』所収のうち文化十一年の十三丁を書写。

文化十二年（一八一五）五十二歳

十月晦日、永田氏と川喜田氏の所蔵本にて1367『ぬなはの草を』（多田南嶺）を校正模写。

十一月、永田氏と川喜田氏の所蔵本にて1053『北極出地考』を校正模写。

966『出地稿』を書写。＊暦の記録。

文化十三年（一八一六）五十三歳

一月、99『志陽略誌』（葦田少甫）の本文は他筆だが、二つの序文および奥書は定穀の筆跡（最初の序文は他筆か）。本文には定穀による訂正、注、貼紙あり。

三月、榎倉（武賛か）氏所蔵本により208『退閑雑記』（松平定信）を模写を終えたとあるが、本文の筆跡は他筆（不明）。外題・書き入れ・奥書は定穀の筆跡。

五月、202『伊勢太神宮参詣記』を書写。貞享元年（一六八二）一禰宜家行の本奥書あり。

八月一日、由良時諶（ときざね）秘蔵本により『郷村帳』を模写。
閏八月一日、97『残編風土記略鈔』所収「和名類聚鈔抜萃」は、上田百樹所蔵本を書写。
八月十五日、97『残編風土記略鈔』所収「伊勢国風土記残編」は、川北友成（丹霊）所蔵本を模写。
八月十六日、94［参考伊勢国残編風土記］（仮目録『参考風土記』）を異本で二、三校を終える。

文化十四年（一八一七）五十四歳

五月晦日、364『須弥山儀銘並序』を書写。
六月、谷川家秘蔵本を謄写した永田蘿道所蔵本により64『多気窓蛍記』を書写。
十一月、33『宮川日記』を書写。

文化十五（文政元）年（一八一八）五十五歳

一月、信實が350『円光大師御伝第三十二別行』を書写。
秋、751『伊豆国七島之図』を書写。
六月、1334『大骨鞴鞴切付之弁略』（阿川義広）を書写。
150『経ヶ峰実測（絵図）』167『七国見界図』をもとに168『七国見界図』を浄書する。

文政二年（一八一九）五十六歳

三月十六日、1047『文政二年卯三月十六日月食皆既問答』は、月食についての定穀の質問に小嶋好謙が答えたもの。墨書による図あり。
三月、納所村の村田氏所蔵本により30『納所村大神宮御蔵堂』を模写。
三月、31『神田記　付録御田神事記伝』を著す。序文は谷川清逸（自筆）。＊納所村村田某の所蔵本に、村老の語りを加えて記した神事、諸道具などについて記す。
四月、5『伊賀国・志摩国・神名考』を書写。
四月、谷川家所蔵本により7『五十瀬国式社案内記』（橋村正身）を信實に書写させる。定穀による校合奥書、書き入れ多数あり。
八月朔日、78『伊賀名所記』を信實に書写させる。奥書は定穀。
九月、蓬莱尚賢秘蔵本により19『神鳳鈔』を信實に模写させる。阿川義広本などで定穀が校合。

文政三年（一八二〇）五十七歳

夏十五日、京師小森氏所蔵本により739『野作図』を模写。
＊樺太、エトロフなどの北方地図。

九月、橋倉雅子による謄写本58［結城入道軍中日記］（仮目録『軍中日記』）が贈られる。巻末に、その旨の識語あり。十月十五日、52『伊勢国多気懐旧』を信実に謄写させる。校正も信実によるとみられる。＊北畠家の家臣名録。

文政四年（一八二一）五十八歳

五月、伊豆熱海の客舎にて村田光窿の秘蔵本により958『三要略書抜粋』を書写。

文政五年（一八二二）五十九歳

一月、伊勢橋倉氏所蔵本により23『神名帳考証再考』を謄写。ただし八丁以下は他筆。

六月十六日、蓬莱氏所蔵本により731『紀伊国図』を模写。

九月、17『式社参拝記并三十三所観音廻拝記』は榎倉（武賛（たけおき））か）所蔵本にて校合。表紙に「黒部氏蔵」の墨書。

十月、川喜田家秘蔵の八丈嶋土図を川北丹霊（友成）に依頼して748『八丈図』を書写。定穀による識語に「こたび友人とも成に乞ふて、平図にうつし家におさむ」とあり。

768『義倉積金目論』を書写。＊商業関係資料。

文政六年（一八二三）六十歳

一月、蘿道（俳人）編による歳旦帳219『花の春』（刊）が贈られたか。＊「未とし」に「老の春」と詠出している点から文政六年と推断。

二月晦日、南勢（度会）の榎倉（武賛（たけおき））か）氏所蔵本により絵図707『尾張国』を模写。

五月、榎倉（武賛（たけおき））か）氏所蔵本により26『大神宮御遷幸図』を謄写か。奥書は定穀の筆跡で「遷幸図一冊榎倉氏請所蔵使稲垣氏謄写畢　文政六癸未年五月晦日　凸頭牧人」とある。凸頭牧人は定穀。「稲垣氏」は信実か。

七月末、榎倉（武賛（たけおき））か）氏所蔵本により82『伊勢参道里程鈔』を謄写。本文は他筆。

九月、久保倉氏旧蔵の橋倉氏所蔵本により10『外宮子良館祭奠式』を謄写。奥書には「稲垣某」に謄写させたとある。信実か。

十一月、1539［羅山文集］（仮目録『羅山書簡』）を市で購入。

文政七年（一八二四）六十一歳

三月十五日、榎倉（武賛（たけおき））か）氏蔵『倭姫命世記』により38『（校正）倭姫命世紀』を朱筆校合。文政八年四月一日↓

文政八年（一八二五）六十二歳

三月、621『七十二侯略解』を書写。春木煥光の本奥書あり。

四月一日、谷川氏蔵『倭姫命世記』により38『（校正）倭姫命世紀』をさらに藍筆校合。前年三月十五日には榎倉（武賛か）氏所蔵本にて一校を終えている。奥書に「稲垣定穀六十二翁再謄写」とあり。

四月、「松田ぬし」所有本を借覧し475『南方紀伝』を「稲垣のぬし」に書写させる。奥書は定穀。「稲垣のぬし」は信實か。

十一月十五日、野田氏恵贈によるレザノフ長崎入津までの海路図669『環海異聞塩路日記』を「東武某所」本にて校正する。

文政九年（一八二六）六十三歳

二月一日、546『田村将軍墓誌併図』は、「田道将軍墓誌併図」（21丁）「筑後国石人図考」（9丁）「田道公墓誌追考」（3丁）が収録されている。このうち、「筑後国石人図考」に「文政九丙戌年春二月朔　凸頭牧人模写」の書写奥書あり。文政十三年十一月一日↓

二月一日、永田氏川喜田氏所蔵本により569『蝦夷志』を再謄写、校正。明和四年初春に父信忠が谷川家本にてすでに謄写。

五月、226『新野問答』を榎倉（武賛か）氏より借覧書写。「凸頭榎蔭」と墨書。

八月十五日、609『東巡三国志抜粋』を書写。

文政十年（一八二七）六十四歳

三月、榎倉（武賛か）氏所蔵本により27『太神宮諸雑事記』を模写、校正。

九月、松田氏所蔵本により15『斎宮部類』を「稲垣氏」に模写させる。「稲垣氏」は信實か

文政十一年（一八二八）六十五歳

一月より四月まで「尾陽名古屋某の家にもたりしをかり」出して1464『平家物語』の一校を終える。巻十五の後に定穀による三丁半分の補写あり。本文は信實の筆蹟か。

五月、天明の初頭、江戸にあったころ友人松本氏所蔵の『懐橘談』を借用して書写したが、誤写・書き損じが多く、松田氏所蔵本を借りて571『懐橘談』一校を行う。

十一月、57『桑名雑記』を書写。

文政十二年（一八二九）六十六歳

六月、14『斎宮次第伝・同群行次第記』にはそれぞれ奥書あり。前者は「阿野氏のもとにありしをかりて／稲垣主にこふて写之侍りぬ…凸頭撫夫并校」とあり、定穀が、信實に依頼して書写させたものであろうか。「稲垣主」が不詳。校正は

定穀。『同（斎宮）群行次第記』は同年十一月↓
十一月、14『斎宮次第伝・同群行次第記』所収『斎宮次第伝』同様、『同群行次第記』も「稲垣主」に依頼して書写させる。校正は定穀。

文政十三年（一八三〇）六十七歳

六月晦日、111『勢陽示蒙』を入手。定穀の書き入れあり。
六月晦日、642『張州府志　巻廿七』を書写。
十月、荒木田武雄謄写の［内宮外宮御師以呂波分　諸国大名御師附］（仮目録100『諸国大師附内宮外宮御師以呂波分』）を永田勝子・了介に謄写させ、定穀が校正。
十一月一日、546『田村将軍墓誌併図』は、「田道将軍墓誌併図」（21丁）「筑後国石人図考」（9丁）「田道公墓誌追考」（3丁）が収録されている。このうち、「田道公墓誌追考」に「文政十三年庚寅年仲冬朔灯下写畢　凸頭樵夫（八々三翁）」の書写奥書あり。文政九年二月一日↓

天保二年（一八三一）六十八歳

二月、堀氏所蔵の709『紀乃国全図』を信保に模写させる。奥書は定穀。
三月十五日、信保が148『異本北畠家古地図』を模写する。定穀が模写させたか。奥書は定穀。
冬、604『紀州領三国郡村名』を書写。奥書に「…八々四翁凸頭樵夫居六」と記す。

天保三年（一八三二）六十九歳

五月、1531『醍醐随筆』を書写。定穀の筆跡は全五十三丁のうち三丁三行目まで。以下他筆。奥書は定穀。
十一月、川喜田氏所蔵本により568『伊豆海嶋志』三冊（『南方海嶋志』二冊と『伊豆国海嶋風土記』一冊の合綴本）のうち『南方海嶋志』を野村氏・之保に謄写させる。叙文・跋文は定穀の筆蹟。さらに本文の誤字や考証・解釈を朱筆にて書き入れる。＊天保五年九月晦日↓
650『木の国記行（ママ）』を書写。著作か。虫損甚だし。

天保四年（一八三三）七十歳

1103『七改暦（天保四年癸巳）寛政暦』を書写。

天保五年（一八三四）七十一歳

三月、41『宮崎文庫への奉献状』によると著作『伊勢国図』『伊勢志略』を豊宮崎文庫へ奉納。
九月晦日、川喜田氏所蔵本により568『伊豆海嶋志』三冊（『南方海嶋志』二冊と『伊豆国海嶋風土記』一冊の合綴本）

のうち『伊豆国海嶋風土記』を模書させる（野村氏・之保か）。外題と奥書は定穀の筆蹟。天保三年十一月↓

九月、「寛政きのと卯ノ年卯月みちのくのしほがまの宮人藤原知明述」の奥書のある1121『花勝美考』（写）に「天保五ツとしきく月凸頭樵夫」の識語を記す。入手時期と推断。

十二月、之保（寧）、定穀の著『八国接壌図』を刊行。塩田随斎の序文、之保の跋文あり。＊津市津図書館は、刊本『八国接壌図』は未所蔵。

天保六年（一八三五）七十二歳

十一月、津藩士塩田随斎より書翰が送られる。539『塩田随斎書簡』。長歌「初嘗勢海苔脯卒蛙長歌寄洲佐平老人」。佐平は定穀。

十一月十五日死去。

年月日不明

71『阿古根浦他』を書写。＊阿古根浦、船寄、玉波島など地名を調査した手控えか。

76『伊賀国』を書写。＊伊賀国の地名考証の手控え。

83『伊勢志略』は自筆稿本。＊『伊勢志略』のはじめの書名は『勢陽遂録』。

84『（伊勢の村名　字名集）』は『伊勢志略』執筆のための手控えか。

85『伊勢国』は『伊勢志略』執筆のための手控えか。

87『伊勢平氏』は『伊勢志略』執筆のための手控えか。＊書き入れ甚だし。

88『（関東健士　他）』を書写。『伊勢志略』執筆のための手控えか。＊書き入れ甚だし。87『伊勢平氏』とはツレ。

91『黒部氏草稿』は三重郡長松御厨寺方村などを考証した書き付け。

93『古蹟門』は伊勢国の名所を詠んだ歌を万葉集、勅撰集などより抜粋したもの。『伊勢志略』執筆のための手控えか。

95『山川門　上』は『伊勢志略』所収「山川門」の稿本。

96『山川門』は『伊勢志略』所収「山川門」の稿本。

154『白鳥塚　附近絵図』は能褒野実地踏査の記録。

155『白鳥山　附近絵図』は能褒野実地踏査の記録。

174『志摩の国見取図』は実地踏査の記録。

177『志摩国』は津港から志摩までの行程・距離を詳細に記す。

214『和歌名所追考』（刊　端本）巻三への書き入れあり。
236『群書類従』（刊　端本）巻四・九・二十三への書き入れあり。
351『オコト傳』を書写。
366『西琳寺之記』（寛政八年無仏軒写）への朱筆書き入れあり。
370『東大寺宝物略記』を書写。
388『喜利須徒廿三品学文之事並訳書』を書写。
389『喜利須徒訳文并雪窓尚書伝抜粋』を書写。
390『吉利支丹書　松竹梅』のうち、竹巻の巻末三丁が定穀の筆跡。梅巻にも定穀の筆跡が混じる。
498『保侶衣推考』を書写。伊勢貞丈の本奥書あり。「定按…」と定穀の書き入れあり。
［魯西亜本紀略］（仮目録527『奉教翻訳　魯西亜国志本紀略』）を書写。
［魯西亜国史］（仮目録528『奉教翻訳魯西亜国志』）を書写。
531『閣龍略伝　亜墨利加州開発記』を書写。
547『魯西亜興主ペテルゴロオテ一代略記』を書写。
563『采覧異言』（新井白石）を書写。さらに自筆の書き入れあり。
566『辺要分界図考』を書写。他筆も混じる。
567『新製地球万国図説』を書写。
572『魯西亜国志世紀』（山村昌永）を書写。
610『異聞記』を書写。
623『二叟譚奇』を書写。四冊の内、三冊目は他筆。奥書なし。
629『伊豆州熱海湯前神祠之碑銘并序附碑名拓本』は「碑文拓本」一枚と「伊豆熱海湯前神祠之碑并序」一枚からなるが、後者は定穀の書写。
634『伊斯把你亜（イスパニア）』を書写。
636『旧所記』を書写。＊日本国内を国別に、什物、名産、遺物などを記す。
640『蝦夷之内エトロフ嶋チャルシヤム』を書写。
641『豊後國風土記』を書写。文禄四年の本奥書あり。
648『斎村他』を書写。＊全三丁。手控え。
654『地図備考』を書写。
657『坤輿万国全図』を書写。亀山藩由良時諶（ときざね）本を転写。
667『坤輿全図』を書写。
670『魯西亜製輿地図』を書写。

676『東察加之図』を書写。
680『職方外記　五大州図并萬国全図』を書写。
687『蝦夷図』を書写。
693『元亀天正ノ頃往古江戸絵図』（写・他筆）への書き入れあり。
696『蝦夷全図』を書写。
704『大和国陵図』を書写。
705『補製大和国陵図』を書写。「補製」は704『大和国陵図』を補った意。
706『雄波理国』（写）への貼り紙は定穀による。
710『多賀宮東西図』を書写。
712『越後州略図』を書写。
713『大和国大絵図』（刊）への書き入れあり。
722『（熱海之絵図付図）』は熱海之海岸線を描いた紙片で実地踏査の記録。
726『（山城、大和、紀伊、河内、和泉、摂津）巡遊行程程安見図』（刊）への朱筆書き入れあり。
737『美濃国　石津郡・多気郡』を書写。
738『尾張（ママ）智多郡略図』を書写。
739『野作図』を書写。＊樺太、エトロフなどの北方地図。
744『蝦夷図』を書写。
750『寛政新刻早見道中温泉道しるべ』（刊）への書き入れあり。
753『日光道中行程記』（刊）への書き入れあり。
872『本朝正月若菜を供する事』を書写。＊正月に若菜を供することの説について『歌林雑木抄』などを引用しつつ考察したもの。「五行」「ナズナ」などの墨絵あり。「比女始考」収録。巻末に「以上小嶋氏説安濃津阿川義広稿」とあり。
878『□□（ヤブレ）二国人物図之首』を書写。＊外国人を描いたもの。
890『軍法不審條々』を「越村氏所蔵」本にて書写。＊越村は越村徳基。
893『矩法』を書写。
898『伝法』を書写。＊内題「銅板腐薬　松原氏伝」。
899『作例（正孤三角第一則）』を書写。＊本田芳信の本奥書あり。
900『天重数図和解』（本田芳信）を書写。
904『浅草測量所西洋暦経目録』を書写。
906『経度表』を書写。

907 『異聞豹管録』を書写。

［菅像弁］（仮目録917『菅蠡秘言』）を書写。

918 『（漢訳表）』を書写。

921 『規矩要法秘訣鈔』を書写。

922 『儀像志』を書写。

923 『魏天文志』を書写。

924 『甲寅稿』を書写。＊天体の記録。

925 『疑問』を書写。

928 『求正交所在、求太陽所在、求太陰所在』を書写。

936 『金天文志』を書写。

937 『舒明天皇六年秋八月長星見南』を書写。＊彗星の見えた年を和年号・中国年号と共に記す。

［乾象図説序文］（943『乾象図説』）を書写。＊943『乾象図説』は944『乾象図説』の序文。

944 『乾象図説』を書写。

947 『紅毛星図贅説』を書写。

949 『合羅咄保骨図』を書写。

951 『五星七政二十八宿等』を書写。＊星に関する手控え。

956 『左伝襄公二十一年』を書写。

957 『三才発秘　抜翠』への朱筆書き入れあり。本文は他筆。

961 『予疋日贈孫武』を書写。＊二十五節気に関する手控え。

962 『斜孤三角法』を書写。＊「利明本多先生口授」と表紙に墨書。

965 『朱子語類天地篇下云々』を書写。＊手控え。

967 『須弥山儀平図并銘別』を書写。＊一枚。本来364『須弥山儀銘並序』と一括。文化十四年五月晦日↓

969 『春秋左氏伝食考』を書写。

972 『象限儀用法』の外題を染筆。本文他筆。

974 『宝暦甲戌新暦提要簡法』を書写。

975 『彗星運行図』を書写。

976 『彗星考　用法記附録』を書写。＊手控え。

978 『彗星説』（殿村庸行序文）を書写。

979 『（彗星論）』を書写。＊「凸頭牧人稿」とあり定穀の著作か。

980 『崇禎暦引』を書写。

981 『西漢天文志』（写）への書き入れあり。本文他筆。

983 『正弧三角法』を書写。

984 『（星座形）』を書写。

985 『（星座集）』を書写。
987 『西洋新法暦書』を書写。
993 『宋天文志』は合写。十七丁まで定穀の筆跡。
994 『太陰平行術』を書写。＊手控え。
996 『太陽』を書写。
997 『太陽天之順行』を書写。＊手控えか。
1003 『天経或問』への朱筆書き入れあり。本文他筆。
1004 『天経発蒙』を書写。「宝暦十二年壬午秋八月壬寅山懸正貞述」の本奥書あり。
1005 『天工通理』（溝口林卿（内匠））の本田芳信の序文を書写。本文は他筆か。
1008 『（天球説）』を書写。
1011 『天変録（雑記帳）』を書写。＊手控え。
1014 『天文経緯問答和解抄』を書写。
1016 『天文志』を書写。＊天文関係の書名を書き付けたもの。
1017 『天文成象』を書写。
1018 『（天文説）』を書写。＊手控え。
1022 『東漢天文志』を書写。
1025 『唐天文志』を書写。＊内題「天文志」。
1027 『南北二緯求日出没時刻及方位角度二則』を書写。
1028 『廿四気以配各月』を書写。＊罫紙二枚をコヨリにて綴じる。
1029 『二十八宿名義解』（小林修子善）を書写。
1032 『日短星昴以正仲冬』を書写。
1033 『八線紀元略』を書写。巻末「用法解儀　東都處士本多利明」。
1035 『八線対数表』（本田利明）を書写。巻末「用法解儀　東都処士本田利明」。
1036 『七曜轉輪図』を書写。
1038 『非天経惑問』を書写。
1039 『惑問』を書写。
1051 『望遠鏡観諸曜記』を書写。＊善兵衛なるものが京都へ行き天体観測をしている旨を記す。
1052 『補授時癸卯暦』（本多利明）を書写。
1059 『ヨハン子スボイス』を書写。
1062 『両球製造記』を書写。＊巻頭「北山権之助　馬道良訓訳」。
1063 『暦学疑問（歴算全書抜粋）』を書写。
1064 『暦学疑問補』を書写。

1065『暦象新書』を書写。
1066『暦進上啓』を書写。
1067『論仏国暦象篇之標題』を書写。
1069『惑問稿』を書写。＊手控え。大福帳綴じ。
1112『五代史司天考』の巻頭一丁のみ定穀筆。以下他筆。
1116『異聞記』を書写。
1126『蘭叢』を書写。「凸頭山人揖」とあり定穀の編纂。＊様々な蘭種の解説書。
1130『大和本草』（刊）への書き入れ、貼り紙あり。1141『大和本草』（刊）はツレ。
1131『西洋医言』を書写。
1149『方剤録』を書写。
1150『玄丹録』を書写。
1186『西洋戦艦図解』を書写。表紙に「山村先生訳」とあり。＊山村先生は山村昌永。
1187『戦舶略解図』の外題を染筆。＊彩色による精密な帆船図。
1216『管（ママ）像弁』（伊勢貞丈）を書写。
1221『山水譜』を書写。外題とともに絵も定穀によると推断。海浜・村落・峠などを墨書にて簡略に描いたもの。＊『津市史』第三巻700頁に定穀について「目に触れる山川河海、道路家屋、樹木四園等一切の光景を、尽く写生して一点の違いがなかった」と記述あり。
1224『紀効新書抜粋二十八宿真形旗各一面』を書写。＊旗の図。
1230『三国筆海全書』を書写。
1258『夜鶴庭訓抄』を書写。
1279『瓢箪彫物ほか』は全六丁。そのうち巻末の九行のみ定穀の筆跡。＊合羽に油を引く方法や付木の製法などについて記す。
1349『外国語単語控』を書写。＊「W」を「ウエスト西」と英語の見出しに和訳を記したり魚、菓実、酒食、人物などについて項目ごとに記す。
1358『諸国方言物類称呼』（刊）へ「定按に…」などの書き入れあり。
1359『重鐫文家必用』（写）への書き入れ、貼り紙あり。本文他筆。
1361『古言梯』（刊）への書き入れ、貼り紙あり。
1372『詩語碎錦』（刊）への書き入れ多数あり。
1374『（かなつかい早学び表）』を書写。＊「たう　堂刀當唐…」

などといった漢字学習を目的としたもの。

1376『（用語控）』を書写。＊漢詩の一節を四季、事項などに分類したもの。

1378『以呂波四十七言之説』を書写。

1379『朝鮮諺文』を書写。

1384『和歌秘伝』を書写。途中より他筆と思われる。

1404『古今和歌集序』（刊）への書き入れ多数あり。＊法帖。

1418『国永卿和歌抜粋』を書写。＊伊勢の地名を詠み込んだ歌を抜粋したもの。

1419『古今和歌集伝授切紙』を書写。

1536『塩尻』の一部を抜粋書写。

1542『詩学逢原』の前半は定穀筆で、後半は他筆。

1545『絶句解』（刊）への書き入れ多数あり。

1548『赤須真人詩集』を書写。

1552『校正三体詩』（刊）への書き入れあり。

【付記】本稿は、紅林健志「高崎矢口家における筆写活動―写本の奥書を中心に―」（国文学研究資料館『調査研究報告』第三十四号、二〇一三年三月）から示唆を受けたことを明記する。

（文学部准教授）